

Title	2013 年度聖学院大学人間福祉スーパービジョンセンター年次報告書
Author(s)	聖学院大学人間福祉スーパービジョンセンター 編
Citation	2011.3 : 1-17
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=5050
Rights	



聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository and academic archiVE

Seigakuin University and Schools

SEIG

2013 年度

聖学院大学

人間福祉スーパービジョンセンター

年次報告書

聖学院大学総合研究所

はじめに

本報告書も6冊目となった。

スーパービジョンセンター（SVC）を設置している大学は少なく、他大学や関係機関からの問い合わせ等が多い。また、近隣等の自治体等との「地域連携事業」においても、SVCとの連携の希望は多い。

柏木昭名誉教授がおもにご指導くださっている、グループスーパービジョンの申し込みは定員に達し、個別スーパービジョンの申し込みも、順調に増加している。

一方、ピア・スーパービジョンの参加者を初め、残念ながら当初の目的に反して、本学卒業生の参加・利用は多いとは言えない。さらに、SVCには、専任の専門職は当初から配置されていないところから、スーパービジョン（SV）を担当される先生方は、教員としての、本務の枠外でご奉仕をしてくださっている。

総合研究所事務局も、多くの業務の中で、SVC運営に、多くの協力をおしまないで当たってくださっているし、限られて予算の中でのやりくりにも尽力されている。

毎年、ピア・スーパービジョンの会を主催、あるいは支援してくださっているSWネット（聖学院ウェルフェアネット：卒業生を中心とする福祉ネットワーク）の皆さんの働きにも感謝を申し上げたい。

中堅として活躍されてきた教員も、今や大学の要職にあり、世代交代も徐々に進行している。本学の卒業生も、それぞれの職場で責任ある立場になりつつある。SVCも、初心に戻り、現状の分析とともに関係者を交えて、次の、たとえば5年間のビジョンを考えなければならない時期となっていると思われる。

2014年3月

聖学院大学総合研究所
人間福祉スーパービジョンセンター長

中村 磐男

目次

1. 事業概要.....	3
1) 目的.....	3
2) 実施体制.....	3
3) 報告書様式.....	4
2. 事業実績.....	5
1) スーパービジョンセンター委員会.....	5
2) スーパービジョン事業.....	5
(1) グループ・スーパービジョン.....	5
(2) 個別スーパービジョン.....	8
(3) スーパーバイザー支援制度.....	8
(4) ピア・スーパービジョン.....	8
3. 2013年度予算.....	9
4. 決算（2014年3月31日）.....	9
5. 資料1.....	10
6. 資料2.....	15

I. 事業概要

1) 目的

社会福祉の現場では、日々、さまざまな戸惑い、失敗、ゆれに直面することは少なくない。その結果、不安を抱えて仕事を続けることになり、孤立する人、未来を描けない人も少なくない。これらの壁を乗り越え、燃え尽きない(バーンアウトしない)ための方法として、「スーパービジョン」がある。スーパービジョンとは、スーパーバイザー(熟練したソーシャルワーカー*)が、スーパーバイジー(経験の浅いソーシャルワーカー)に対し、その人の能力が最大限に引き出され、活用されるように支援するものである。具体的には、困難状況や事例に対する関わり方、不安や戸惑いに耳を傾け、受容し、有効なアドバイスをするものである。

2) 実施体制

<プログラム>

- 個別スーパービジョン
スーパーバイザーによる個別のスーパービジョン(原則毎月1回程度)
- グループ・スーパービジョン
スーパーバイザーによるグループ・スーパービジョン(毎月1回)
- 研修交流会 ピア・スーパービジョン(年2回開催)
主にスーパービジョンに関する実践理論の勉強や経験交流の場を提供する研修会
- スーパーバイザー支援制度
すでにスーパービジョンを行っている人々をサポートする制度

<場 所>

聖学院大学、埼玉県男女共同参画推進センター、など

<担 当 者>

柏木 昭 聖学院大学総合研究所名誉教授、(社)日本精神保健福祉士協会名誉会長
相川章子 聖学院大学人間福祉学科教授
田村綾子 聖学院大学人間福祉学科准教授、(社)日本精神保健福祉士協会副会長・研修センター長・認定スーパーバイザー
大野和男 NPO法人精神障害者のあすの福祉をよくする三浦市民の会びあ三浦理事長、
聖学院大学非常勤講師、(社)日本精神保健福祉士協会相談役
行實志都子 神奈川県立保健福祉大学准教授、元聖学院大学非常勤講師
廣江 仁 社会福祉法人養和会指定障害福祉サービス事業所F&Y境港(就労継続A型、B型)
所長、(社)日本精神保健福祉士協会認定スーパーバイザー

* 熟練したスーパーバイザーとは、(社)日本精神保健福祉士協会認定スーパーバイザーとして精神保健福祉士国家資格を有する者などを言う。

3) 報告書様式

聖学院総合研究所事務室宛 (FAX 048-781-0421)

聖学院大学 人間福祉スーパービジョンセンター

実 施 報 告 書

年 月 日

スーパーバイザー氏名			
スーパーバイザー氏名		(GSV 記入)	人
実施スーパービジョン	<input type="checkbox"/> 個別スーパービジョン		
	<input type="checkbox"/> グループ・スーパービジョン		
	<input type="checkbox"/> スーパービジョン支援制度		
実施年月日	年 月 日 ()		
実施時間	AM PM	時 分 ~	時 分
実施場所	① 聖学院大学 (教室名)		
	② 埼玉県男女共同参画推進センター (さいたま新都心駅、北与野駅)		
	③ 聖学院本部新館 (駒込駅)		
	④ その他 ()		
事務局への要望			
質問			
その他			
相談料	金額 (支払方法)	会計担当	事務担当

II. 事業実績

1) スーパービジョンセンター委員会

第1回委員会:4月24日(水)11:30~12:30

場 所:3号館 3204室

出席者:柏木昭、中村磐男、牛津信忠、助川征雄、相川章子、田村綾子
事務局:山本俊明、辻本修(書記)

第2回委員会:7月17日(水)11:30~12:30

場 所:3号館 3204室

出席者:柏木昭、中村磐男、牛津信忠、助川征雄、相川章子、田村綾子
事務局:山本俊明、木下元、江連さゆり(書記)

第3回委員会:9月25日(水)11:30~13:00

場 所:3号館 3202室

出席者:柏木昭、中村磐男、牛津信忠、助川征雄、相川章子、田村綾子
事務局:山本俊明、木下元、江連さゆり(書記)

第4回委員会:12月4日(水)11:30~13:00

場 所:3号館 3204室

出席者:柏木昭、中村磐男、牛津信忠、助川征雄、田村綾子
事務局:山本俊明、木下元、江連さゆり
欠席者:相川章子

第5回委員会:1月8日(水)11:30~12:30

場 所:3号館 3204室

出席者:柏木昭、中村磐男、牛津信忠、助川征雄、相川章子、田村綾子
事務局:山本俊明、木下元、江連さゆり

各回の内容については、後ページに資料として掲載する。

2) スーパービジョン事業

(1) グループ・スーパービジョン

<柏木 昭>

実施回数:10回

人 数:10名

場 所:埼玉県男女共同参画推進センター(さいたま市)

第1回	2013/ 6/ 7	児童養護施設保育士
第2回	2013/ 7/12	相談支援事業
第3回	2013/ 8/ 9	相談支援専門員
第4回	2013/ 9/13	相談支援事業
第5回	2013/10/25	医療機関精神保健福祉士
第6回	2013/12/13	相談支援事業
第7回	2014/ 2/14	職業指導員
第8回	2014/ 2/21	相談支援事業
第9回	2014/ 3/14	相談支援事業
第10回	2014/ 3/28	相談支援事業

総括

研修参加者（スーパーバイザー）の態度はおおむね積極的、好意的、相互支持的であった。グループスーパービジョンでは、ソーシャルワーカーが現場にあって、クライアントの人格を尊重し、その人の希望に傾聴し、気持ちに寄り添って、問題を共に吟味するという姿勢を大切にする。参加者はこうした姿勢を多少なりとも持ってグループスーパービジョンに臨み、さらなる研鑽を積もうとするのである。

今期、これはこの種のスーパービジョンにおいてはごくまれな例だと思うが、残念な事態が起きている。第2回2013/7/12の報告者は本学卒のソーシャルワーカーであるが、相談支援専門員としての相談支援の基礎的な知識に欠け、クライアントの概況を述べるにとどまる報告であった。グループでの報告では、クライアントに対する共感的態度が見られず、相談員としてどのように相手との間に、かかわりを構築しようとしたか、またそのためにいかなる配慮を相手に払ったか等、語られることはなかった。スーパーバイザーのその場でのグループ総体としての受容的態度の醸成を十分に果たせず、当該報告者はその後の参加が全くなかったこともあり、支援ができなかったことが悔やまれてならない。

<相川章子>

実施回数：4回

場 所：聖学院大学

<田村綾子>

実施回数：2回

場 所：さいたま市

人 数：基礎編(半日)20名

応用編(1日) 4名

実施回数：2回

場 所：四国

人 数：基礎編(半日)11名

応用編(1日) 4名

総括

●さいたま市社会福祉協議会スーパービジョン研修

2013年度に本学とさいたま市が包括協定を締結するにあたり、事前の打ち合わせ段階で本学における人間福祉スーパービジョンセンターの取り組みに対して先方が関心を持たれ、担当者との数回の打ち合わせを経て、この度本研修を初めて開催した。

受講者はさいたま市内の福祉施設等に勤務する職員で、その殆どは無資格者であった。また受講動機については「職場における後輩や部下の指導に役立てたい」「就職した職員に自覚と誇りを持って働いてもらい、離職を防ぎたい」という思いが表れていた。

研修は2回1コースとし、初回は半日の講義でスーパービジョンの概論を理解することを目

的として行い、2回目は初回の受講後に職場でスーパービジョンを実施してみて、そのレポートを持って受講する応用編の位置付けとした。初回の受講者が24名に対し、応用編に臨んだ受講者は4名と少なかったが、濃密な研修会を持つことができた。今年度は初の企画ということもあり、初回が1月、応用編が3月と職場ではインフルエンザをはじめ天候不順による体調不良者も続出し、当日キャンセルも多くなってしまったが、受講者のアンケート結果からは、職場における部下の教育訓練・指導と、部下の専門職者としての力量を伸ばすためのかわりであるスーパービジョンには相違点があることの再認識を促すことができたことが手応えとして感じられた。

現在の福祉施設は、利用者が増大する一方で福祉施策は必ずしも充実していると言えない状況下であり、利用者支援に従事する職員の待遇や教育支援体制も十分とは言えない場合が少なくないと推測できる。しかし、過酷な現場にあつてより良い支援を提供するために従事者を育てる取り組みは極めて重要である。そのための一助として本研修を今後も発展させながら有効に活用していただければと願い、さいたま市社協の要望に基づき次年度も本研修を実施する予定である。本研修の開催にあたっては、書籍紹介等の事務的な手続きも加わり総合研究所の木下氏、小野氏にも多々ご配慮いただいたことに感謝申しあげる。

●四国更生保護委員会スーパーバイザー養成研修会

日本では大阪府で起きた池田小学校事件を一つのきっかけとして、2003年に心神喪失者等医療観察法(略称)が制定され、その中で重要な役割を担う職業として社会復帰調整官が創設された。この職業に就く者の多くは精神保健福祉士としての現場実践経験を有する。そして本法施行から10年を迎えるにあたり、上席社会復帰調整官が位置づけられ、後輩に対するスーパービジョンの実施とそのための研鑽を行うよう、法務省より全国の保護観察所に通達された。

本研修はこれを受けて四国4県の保護観察所合同で本学に対してスーパーバイザー養成研修事業を委託され、実施したものである。本学への事業委託のきっかけは、かつて高知県精神保健福祉士協会において本学スーパービジョンセンターにおける個別スーパービジョンの取り組み紹介を依頼され、スーパーバイザー田村とスーパーバイザー川崎(福岡県・地域包括支援センター勤務)が講演に招聘されたことであつた。

この研修会は、保護観察所に勤務する上席社会復帰調整官及び新任社会復帰調整官に対するスーパービジョン概論の講義と、数か月間のスーパービジョン実施を経て上席社会復帰調整官による実践報告及びそのスーパービジョンという二本立てで企画、実施した。

スーパーバイザーになるべき社会復帰調整官4名は、いずれも各県における長い経験を有する精神保健福祉士で、隣県の新任社会復帰調整官とのペアリングにより、3回程度のスーパービジョン実践を行い丁寧なレポートを持参して実践報告に臨まれた。ここではグループスーパービジョンの手法を用いて、1泊2日で一人ずつの実践を聞き、その内容について詳細に検討を行い、相互に気づきを語り合う濃密な時間が展開された。それぞれの実践において、丁寧に新任者の語りに聞く姿勢やサポートティブな態度が貫かれたことがうかがえた。また一人ひとり、新任調整官の不安や悩みを聞くことで、自身の職場の後輩に対する指導の姿勢にも変化があつたことや、スーパービジョンの必要性を再確認したことが大きな気づきであつたとふり返っていた。

関東地方では未曾有の大雪となつた季節に陸路四国まで向かうのはなかなか大変であつたが、この研修受講者ご一同の真摯な姿勢や確かな実践に私自身も励ましを得、多様な福祉実践現場におけるスーパービジョンの有用性を再認識した機会であつた。

なお、本研修の事業受託契約にあたっては、学長室の浦沢氏にも多大なご尽力をいただいたことを感謝したい。

(1) 個別スーパービジョン

<助川征雄>

実施回数：延べ17回
場 所：助川研究室
人 数：2名

<相川章子>

実施回数：延べ11回
場 所：聖学院大学
人 数：2名

<田村綾子>

実施回数：延べ15回
場 所：本学研究室・四ツ谷駅周辺
人 数：5名

<廣江 仁>

実施回数：延べ11回
場 所：埼玉県男女共同参画推進センター、その他
人 数：2名

(2) スーパーバイザー支援制度

<田村綾子>

実施回数：5回
場 所：本学研究室・四ツ谷駅周辺
人 数：1名

(3) ピア・スーパービジョン

①第12回ピア・スーパービジョン

日 時：2013年10月13日（土）13：30～16：30
場 所：聖学院大学4号館4階会議室
人 数：16名（関係者含む総人数：25名）
総合司会：大島知子（99W）

②第13回ピア・スーパービジョン

日 時：2014年3月1日（土）13：30～16：30
場 所：聖学院大学4号館第一会議室
人 数：8名
総合司会：山田裕太（SWnet）

ピア・スーパービジョン プログラム及びアンケート結果は、後ページに資料として掲載する。

III. 2013 年度予算

【収入】

項目	内容	単価	人数	回数	金額
受講料	グループ・スーパービジョン	30,000	3	10	90,000
受講料	グループ・スーパービジョン (卒業生)	20,000	7	10	140,000
受講料	個別スーパービジョン	6,000	9	43	258,000
受講料	個別スーパービジョン (卒業生)	2,000	2	11	22,000
受講料	スーパーバイザー支援制度	8,000	1	5	40,000
合計					550,000

【支出】

項目	内容	金額
報酬・委託・手数料	スーパーバイザー謝礼、ピアSV講師謝礼	300,000
消耗品費	色上質紙、コピー用紙	0
旅費交通費	スーパーバイザー交通費	28,000
通信運搬費	リーフレット・グループSV・ピアSV案内送付	151,000
印刷製本費	リーフレット増刷	95,000
集会費	スーパーバイザー情報交換会	4,000
賃借料	グループSV会場代	34,000
合計		612,000

IV. 決算 (2014 年 3 月 31 日)

【収入】

項目	内容	収入額
受講料	グループ・スーパービジョン、個別スーパービジョン	550,000

【支出】

項目	内容	支出額
報酬委託	スーパーバイザー謝礼、ピア・スーパービジョン講師謝礼	304,253
印刷製本費	リーフレット増刷	94,473
通信費	リーフレット、グループSV案内、ピアSV案内送付	139,729
集会費	スーパーバイザー情報交換会、個別スーパービジョン	0
賃借料	グループ・スーパービジョン会場代	39,260
消耗品費	色上質紙	0
旅費交通費	スーパーバイザー交通費	8,100
合計		585,815

【資料1】2013年度 スーパービジョンセンター委員会記録

第1回委員会:4月24日(水)11:30~12:30

場 所:3号館3204室

出席者:柏木昭、中村磐男、牛津信忠、助川征雄、相川章子、田村綾子

事務局:山本俊明、辻本修(書記)

I. 報告事項

1. 個別スーパービジョン

- ・柏木 現時点では実施していない
- ・助川 1名新規申込み
- ・相川 現時点では実施していない
- ・田村 4名継続

2. 2013年度グループ・スーパービジョン

- ・柏木
 - ①埼玉県:現在10名。第1回 5/10実施
 - ②石川県:未定

3. 出版の進捗状況について

販売予定:6/13(学会)、6/28(学会)、6/29(研修会)

学会で取り上げて、できれば販売も行いたい。情報を集約して事務局にお知らせする。

第2回委員会:7月17日(水)11:30~12:30

場 所:3号館3204室

出席者:柏木昭、中村磐男、牛津信忠、助川征雄、相川章子、田村綾子

事務局:山本俊明、木下元、江連さゆり(書記)

I. 報告事項

1. 個別スーパービジョン

- ・柏木 実施していない
- ・助川 2名実施
- ・相川 1名予定
- ・田村 4名継続、1名新規
- ・廣江 2名実施

2. 2013年度グループ・スーパービジョン

- ・柏木
 - ①埼玉県:現在10名。第2回 6/14実施、第3回 7/14実施、第4回 9/13予定。
 - ②石川県:未定

・相川

奇数月の最終土曜日に実施。5月末に13名で実施。今後も継続していく予定。

3. さいたま市社協との話し合いについて

- ・「現場リーダー研修」の要請内容はスーパーバイザー支援制度の内容と異なっていた。
 - 先方の考える研修会規模や目的等について再検討してもらうことを伝えた。
 - 地域事業連携センターとのつながりが必要かもしれないが、連絡は特にしていない。

4. 出版の進捗状況について

- ・JAPSW での書籍販売
 - 6/13-14 59,200 円の売り上げ (於:全国大会/学会)
 - 6/28-30 27,000 円の売り上げ (於:ラフレさいたま/大学チャペル/大学エルピスホール)

II. 検討事項

1. 10 月ピア・スーパービジョンについて
 - ・講演者 田村先生
 - ・感話「スーパーバイザーから」 高橋聖子さん
 - ・第 2 部「ピア・スーパービジョンとは？」 → 大島知子さんに依頼
 - ・タイムスケジュール
 - 13:30 より牛津先生の挨拶。総合司会は SW ネットへ依頼。
 - 第 2 部「PSV とは？」-15 分, PSV(グループ話し合い)1 時間, コメントまとめ(15 分)
 - ・チラシの作成、発送等
 - 例年に準じた発送先へ 7 月中に発送する。2012 年度卒業生にはヴェリタス祭の案内を同封する。
2. その他

第 3 回委員会:9 月 25 日(水)11:30~13:00

場 所:3 号館 3202 室

出席者: 柏木昭、中村馨男、牛津信忠、助川征雄、相川章子、田村綾子
事務局: 山本俊明、木下元、江連さゆり(書記)

I. 報告事項

1. 個別スーパービジョン
 - ・柏木 実施していない
 - ・助川 2 名実施
 - ・相川 1 名実施、1 名新規
 - ・田村 5 名継続
 - ・廣江 2 名実施
2. 2013 年度グループ・スーパービジョン
 - ・柏木
 - ①埼玉県:現在 10 名(1 名欠席がち)。第 4 回 9/13 実施、第 5 回 10/11 予定。
 - ②石川県:未定
 - ・助川
 - ①茨城県:9/20 実施。
 - ②埼玉県(さいたま市):10 月予定。
3. さいたま市社協との話し合いについて
 - ・進展なし(先方からの連絡待ちの状態が続いている)
 - ・7/24 埼玉県社会福祉協議会に SV について報告。
 - ・9/20 福祉部政策課より福祉系大学との連携について話があった。
 - ・9/27 上尾市との包括協定締結予定

4. その他

- ・第2回総合研究所委員会報告
- ・石川県でのGSVを実施しているが、現在中断している
- ・助川:6/28 第2回精神保健福祉学会実施
- ・田村:四国4県よりSV依頼あり(対象:社会復帰調整官)
契約内容:講義+個別SV(4名)+GSV
- ・JAPSWでの書籍販売 → 6/13-6/30で86,200円を売り上げた。

II. 協議事項

1. PSVについて

10月PSVについて

- ・10/12実施予定 司会:山田裕太さん
- ・チラシに氏名の記載間違いがあった。誤:高橋聖子 → 正:高橋成子

3月PSVについて・日程

- ・3月1日(土)開催予定 → SEIG-netに依頼し周知予定だが、活用には課題も残っている

2. 書籍関係

次年度以降 書籍出版について(出版会からの要望)

- ◆学内販促会を検討してみたらいいのではないか。

3. その他

- ・事例集について ー募集および選定ー
→ 限られた予算内で出版するため、企画書の提出をお願いしたい。
- ・PSVについて、無料でない方が人は集まる可能性もあるため、今後に向けて検討していきたい。

第4回委員会:12月4日(水)11:30~13:00

場 所:3号館 3204室

出席者:柏木昭、中村磐男、牛津信忠、助川征雄、田村綾子

事務局:山本俊明、木下元、江連さゆり

欠席者:相川章子

報告事項

1. SV実施報告(各SVRより)

1.1 個別スーパービジョン

- ・柏木 今年度未実施
- ・助川 2名継続
- ・相川 2名継続
- ・田村 5名継続、その他数名実施
- ・廣江 2名実施していた可能性あり

1.2 スーパーバイザー支援制度

- ・田村 1名新規

1.3 グループ・スーパービジョン

- ・柏木:欠席がちな1名の様子を見守る。第5回 11/8実施、第6回 12/13予定。
- ・助川:10/17さいたま市保健所のPSWのGSVを開始。1回目の旅費は支給された。

- 会の内容は事例報告と個別 SV を兼ねたもので実施している。
- 今後については先方の担当者と相談する(どういう風にしたらいいかなどの相談) ※工夫を検討中
- 3ヶ月に1回のペースで、年度内にあと1回開催を予定している。

2. 10月PSVについて

- ・10/12 実施し、アンケート結果を確認した。
来月発行予定のNLに掲載される予定である。原稿執筆は秀村さんに依頼した。
参加者(教職員含め25名)

3. その他

- ・田村先生:出張先(北海道、さいたま市)で、SV や書籍の宣伝をお願いする。
→ 依頼文書への回答は返信済み。※SV センターとして次回からは回答することとする
- ・SW の書籍も宣伝を検討したい
→ 書籍販売は当面の課題であるため、少しでも書籍販売に力を向けたい。

II. 協議事項

1. PSVについて

3月PSVについて

- ・3/1 13:30 頃からの開始を予定している。(主催:SW ネット)
→ 11月に実行委員会を実施した模様。その報告は届いていない。
- ・会場については、例年通りの時間で施設を予約している。
- ・W 学科の設立15周年記念も兼ねて、何かできないかとW 学科より声があがっている。
→ PSV のチラシにも上記文言をいれるなどして、これまでよりもカミングホームの要素を織り込みたい。
→ 費用は総合研究所とW 学科から予算を組み、予算内に収めてほしい。
→ 詳細は相川先生に確認をする。主催者側と講演会の実施を含め内容を詰めていく。
→ 講演内容はSV を踏まえたもので、柏木先生に、35-40分くらいでお願いしたい。
※ 1月中旬頃には広報活動の都合により、1/15 前後には決定してもらいたい。

2. 次年度予算および事業計画について

- ・今年度は収支総額50万円程となる見込み。
- ・今日現在の残高は40万円。
→ 次年度はマイナス項目がなくなるよう調整していきたい。
- ・石川県でのGSV 費用(主に旅費)について → 一昨年、途中で開催中止となった。
→ 来年度行うとしたら、旅費等の予算は捻出できる状況か。
→ 予算の考えと総合研究所からどれくらい補助として予算を出せるか、要検討である。

3. その他

- ・前回議事録 → 変更を希望する場合には、近日中に総研へ連絡を。
- ・次回PSV & 特別事業の報告があればお願いしたい。

第5回委員会:1月8日(水)11:30~12:30

場 所:3号館3204室

出席者:柏木昭、中村磐男、牛津信忠、助川征雄、相川章子、田村綾子

事務局:山本俊明、木下元、江連さゆり

I. 報告事項

1. SV 実施報告(各 SVR より)

1.1 個別スーパービジョン

- ・柏木 今年度未実施
- ・助川 2名継続
- ・相川 2名継続
- ・田村 5名継続
- ・廣江 2名継続 1.2 グループ・スーパービジョン
- ・柏木 第6回 12/13実施、第7回 1/10、第8回 2/21、第9回 3/14、第10回 3/28 予定。
- ・石川県でのGSVの実施を継続していきたい。
 - 本学卒業生であっても、受講料は一人3万円となることを先方は了承済
 - 旅費と謝金を含めた予算の目処がついたため、実施していく方向で検討したい。
- ・相川 12/21に実施。先方より謝金の支払いがあった。
 - 今後も実施していく可能性がある。

1.3 スーパーバイザー支援制度

- ・田村 1名新規

2. その他

- ・相川 奇数月第4土曜日に数名でPSVを行っている。

II. 協議事項

1. PSVについて

(1) 3月PSVについて

- ・人間福祉学科15周年記念企画は見送りとなった。
- ・SWnetを主催として準備を進めていく。(実施日:3/1)
- ・当日、柏木先生には講評を、助川先生には「ミニレクチャー」を、中村先生、牛津先生には短く挨拶をお願いします。
- ・当日欠席:相川先生、田村先生

(2) 年次報告書について

- ・事務からそれぞれの教員に依頼する。

2. その他

- ・前回議事録 → 承認。
- ・SWnet主催でPSVを続けていくことは難しい。次年度以降、PSVは年1回になる可能性も考えている(10月実施予定) → SWnetの運営や機能について、学科でも協議することが必要かもしれない。

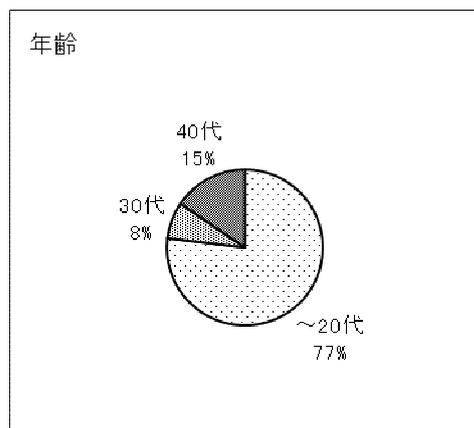
【資料2】2013年度 ピア・スーパービジョン

—第12回 ピア・スーパービジョン プログラム—

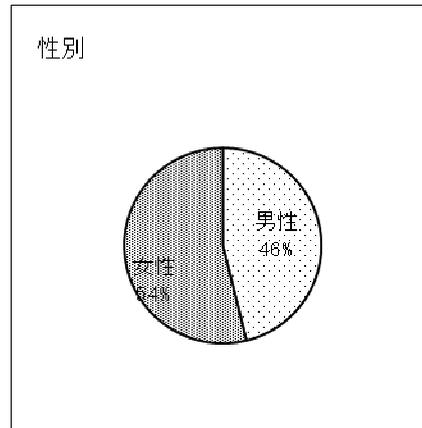
1. 挨拶 牛津信忠 聖学院大学人間福祉学部長
2. 講演 「スーパービジョンの魅力～お互いの元気を育む^{とき}時間～」
田村綾子 聖学院大学人間福祉学科准教授
社団法人日本精神保健福祉士協会副会長・研修センター長、
認定スーパーバイザー
*スーパーバイザーから 卒業生の感話 高橋成子 (104W)
3. 質疑応答
4. ピア・スーパービジョン 「ピア・スーパービジョンとは？」 大島知子 (99W)
5. グループ・ディスカッション
6. 全体会・報告
7. 総括 相川章子 聖学院大学人間福祉学科教授 他
8. 閉会 中村磐男 聖学院大学総合研究所スーパービジョンセンター長
聖学院大学こども心理学科教授

—アンケート結果— (回答者 13名)

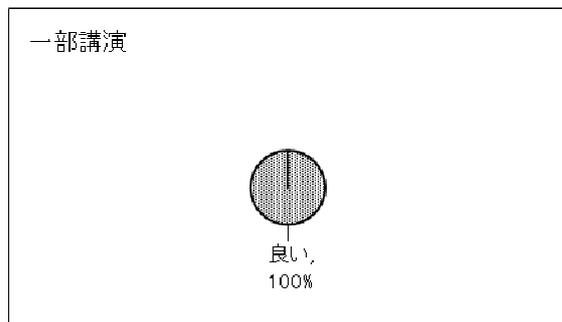
1.参加者の年齢



2.参加者の性別



3.講演について

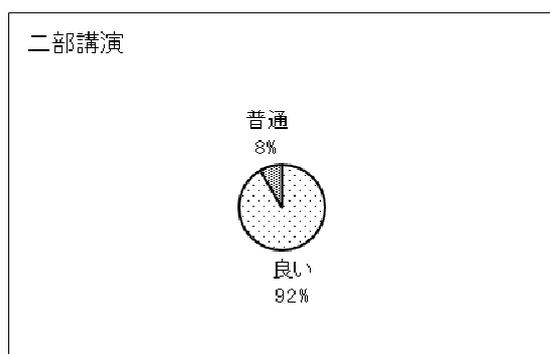


参加者の声

- 相談することのリスクにとらわれていたが、試しに一步踏み出してみようかと思えた。
- スーパービジョンの仕組みを知ることができ、参考になった。スーパービジョンを体験した方の話を聞くことができ、参考になった。
- わかりやすく、実際のスーパービジョンがどのように行なわれているのか聞く事ができて参考になりました。

- 現在スーパービジョンを受けてはいますが、スーパービジョンについてわかってない部分もありました。今回はスーパービジョンの意義や目的について改めて学ぶことができて良かったです。また高橋さんの話では共感できる部分も多く、特にスーパービジョンを受ける事で、前向きにがんばっていけるようになった、というお話を聞き、そうしてところでも、スーパービジョンを受ける意義があるのだと思いました。
- 高橋さんのお話で、やっぱり一人で悩んでいても分からないことだったら何も出来ないなどと思い、先生などに気軽に相談したほうが良いなと思いました。
- 辛いことがあるからこそ、成長する。その成長が自分の宝物になると思った。
- スーパービジョンについて詳しく、理解が深まりました。
- 今までこのような場があることを知らずに仕事していたので、自分だけで答えを探したりしていたのが現状でした。もう少し視野を広げて仕事をしていきたいと思います。
- スーパービジョンの内容を感じられた。
- 今自分が受けているSVの原理や先生の思いを伺うことができて勉強になり、大事にさせていただけることを有難く感じました。

4.ピア・スーパービジョンについて



参加者の声

- ・悩みを話せたこと、他の方の意見が聞けたこと、何よりこういった場を知れたことがとても良かったです。
- ・違う現場で働く人の意見、悩みを聞く事が出来てよかった。今日の体験を今後の仕事に役立てていきたい。
- ・色々な場で活躍されている方々の色々な意見を聞く事ができ、私もそうだとか、なるほどとか、色々なものをもらい感じる事が出来ました。

- ・みなさんも同じように悩んだり、考えたりされていることが分かりました。安心して悩みなどを話せる場所があるのは大事なことなだと思いました。
- ・それぞれ違う職場で働いている人の話しをして、気をつけているところなどを聞き、基本なこと、あいさなどが大事だなと思い、貴重な話を聞かせてくれて良かったです。
- ・相手に相談することで救われる。これが難しいと思った。救われるには勇気がいるから。また、救われるということを知ったことで改めて、人間は一人では生きていけないと思った。

- ・プロフェッショナルとしての悩みは、とても共感できた。
- ・スーパービジョンでは、自分の得たことがありいろいろ悩んだり、自分で問題を解決は正しいと思う。スーパービジョンは目的を持って、目標として理解し、向き合っ素直に行くことだと思う。
- ・職場ではなかなか話すことができないことをみなさんに聞いていただけて、良かったです。人生の先輩の方々との繋がりができて、良かったです。明日からもがんばります。
- ・話をする事で、自分の振り返りになった。

その他の意見や希望など

- ・ありがとうございます。また機会がありましたら参加させていただきます。
- ・始めは年上の人たちで緊張していたのですが、グループでの話で楽しくできました。1時間があっという間でした。本当に来て良かったと思いました。
- ・このスーパービジョンを受けることにより、自分への課題を探し、見つけ、それを直していく事であることを学びました。
- ・他の方と話す機会がなかなかなく、良い機会でした。
 - ・福祉の仕事に就いたとき、自分が悩んだりもありますが、じぶんのコントロールが出来ないと、向き合えないと思う。人の気持ちを上手く考えることが重要だと思った。

—第13回 ピア・スーパービジョン プログラム—

1. 挨拶 牛津信忠 聖学院大学人間福祉学部長
2. ミニレクチャー 「ピア・スーパービジョンとは？」
助川征雄 聖学院大学人間福祉学科長
3. 卒業生からの報告 永沢満里 (100W)、田中光太郎 (107W)
4. グループ・ディスカッション
5. 全体会・報告
6. 総括 柏木 昭 聖学院大学総合研究所名誉教授
7. 閉会 中村磐男 スーパービジョンセンター長
聖学院大学こども心理学科教授